

# 道徳学習指導案（第4学年）

1. 主題名 「本当の友達」 B 10 友情、信頼

2. ねらいと教材

【ねらい】 ひろ子が正子に料金不足を伝えることにした理由を考えることを通して、互いに相手のことをよく考え、理解し、信頼し合うことが友達関係に大切であることに気づき、よりよい友達関係をつくろうとする心情を育てる。

【教材名】 「絵はがきと切手」（日本文教出版 「小学どうとく 生きる力」 4年）

3. 主題設定の理由

（1）価値観

本主題は、学習指導要領第3学年及び第4学年の内容項目B「主として人との関わりに関すること」の「10 友情、信頼 友達と互いに理解し、助け合うこと」に基づいて設定したものである。

この時期の児童は、活動範囲が広がることで、集団との関わりが増え、友達関係も広がってくる。グループ活動や趣味を共有して、仲間と活動することに興味をもつだけでなく、友達の気持ちや立場を理解できるようになる。様々な学習や学校生活を通し、共に学び合い、関係を深めていく大切な時期である。その反面、自分だけの利害にこだわり友達との関係に亀裂が生じることも少なくない。このような関係はよりよい友達関係とはいえない。よりよい友達関係とは、互いに友達のことを信頼し、相手のことを考えて、判断して行動を起こせる関係である。

そこで、よりよい友達関係のあり方について考え、その関係をつくろうとする心情を育てることが大切である。

（2）児童観（省略）

（3）教材観

主人公のひろ子のもとに転校していった友達の正子から絵はがきが届いた。しかし、その絵はがきは定形外であったため、郵便料金不足のお知らせが記されていた。ひろ子は、そのまま料金不足を伝えずにおくべきか、伝えるべきかに悩み、葛藤する。結果、ひろ子は正子に料金不足を伝えることを決心する、という内容の教材である。

本時では「ひろ子が悩んだ末、料金不足の間違いを伝えようとしたのはなぜか。」を主発問として問い、その要因を考えさせる。そして、よりよい友達関係には相手のことを深く思い考えた末に生まれる『信頼』と『理解』が必要であることに気づき、この先よりよい友達関係をつくろうとする心情を育てられることのできる教材と考える。

（4）教材（内容項目）の系統（省略）

4. 指導方針

（1）事前の指導の方針

- ・事前のアンケートを行い、児童の実態を把握してねらいに迫る。
- ・個人の発言後に他の児童にも発言者に対する考えを聞いて、一人一人の思いを児童同士で共感させたり、尊重し合ったりする交流の場を設定する。

（2）本時の指導における方針

【導入】

- ・事前のアンケートや日頃の児童の見取りを生かして問題意識をもてるようにする。

【展開】

- ・ひろ子の迷いに共感させ、発言しやすい雰囲気をつくる。
- ・ひろ子の気持ちの変化を図式化し、視覚的に捉えられるようにして児童の思考を助け、道徳的価値の自覚を深められるようにする。
- ・多面的・多角的な考えに触れるために、隣同士や少人数で話し合わせる。そして、自己を見つめさせ、表面的な考えから脱却し、よりよい友達関係を築くために必要なこととは何かを考えさせ深層に迫る。
- ・児童の発言に対して、問い返し（児童の言葉を受け入れ、児童の思考を広げるために問い返すこと・発言の理由を問い返すこと）をして、ねらいとする価値へ迫る。
- ・黒板に書き出した児童の言葉を価値のある考えだと称賛して、自己有用感をもてるようにする。

【終末】

- ・導入での考えと展開で気付いた考えを比較させて、よりよい友達関係をつくろうとする心情を育てる。
- ・本時の児童の気づきを大切に、余韻をもたせて終わらせる。

5. 本時の学習

(1) 準備・資料 児童：筆記用具、教科書、シート 教師：教科書

(2) 展開

過程	学習活動● 主な発問○ 問い返し（返） 補助発問（補）	ねらい（○） 予想される児童の反応（・）	児童への留意点及び支援
導入 5分	●友達についての捉え方を確認する。 ○友達とはどんな関係のことをいいますか。 (返) 例えばどんなことですか。	○本時のねらいに対する問題意識をもって展開へ向かう。 ・一緒に勉強する ・一緒に遊ぶ ・助け合う ・相談できる ・信じていることができる	・児童がねらいに対する問題意識をもって展開に入れるように友達の具体的な姿を出させる。 ・抽象的な言葉には、どんな意味かを問い、共通理解を図る。
<b>よりよい友達関係とは？</b>			
展開 I 2 5 分	●資料（教師の範読）を聞く。 ●ひろ子が正子の間違いを正子に伝えようと決めたのは、何に気付いたからなのかを追求する。 ○ひろ子はどんなことに悩んでいましたか。 (返) それはどんな理由からですか。 (返) どのくらいひろ子は悩んでいたのでしょうか。	○友達の価値観をひろ子の行動や思いをもとに追求し、深層を多面的・多角的に考える。 ・切手の代金が足りなかったことを親友の正子に伝えようか、伝えないか悩んだこと。 料金不足を伝えると・・・ ・次から正子が同じ間違いをしなくなる。しかし、友達を傷つけてしまうので不安になるから。正子との関係がくずれてしまう。 料金不足を伝えないと・・・ ・このままの友達関係はくずれないかもしれない。	・範読前に、定形外はがきの切手代金の説明をする。 ・展開のねらいに違和感なく入り込めるように「ひろ子の悩み」を考えながら範読を聞くように指示をする。 ・仲の良い友達に対して、言いにくいことがあるのは人としてあたり前であることを伝えて発言しやすい雰囲気をつくる。 ・児童がひろ子の気持ちをイメージできるように、ひろ子の気持ちの揺れを図式化し

<p>◎ひろ子は悩んだ末、間違いを正子に伝えようと決めたのはなぜですか。</p> <p>(返) ひろ子は正子を友達としてどんな人だと思っているのですか。</p> <p>(返) ひろ子にどんな思いをもっているのですか。</p> <p>(補) 間違っていることを伝えられるのは、相手に対してどんな心をもっているからですか。</p>	<p>しかし、正子が同じ間違いを繰り返してしまうかもしれないから。正子に会ったとき隠し事をしているので、嫌な気持ちになるから。</p> <p>『人間理解』</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正子のためだと考えたから。</li> <li>・正子はわたしからのアドバイスを拒否するような人ではないから。</li> <li>・正子ならわたしの気持ちを分かってくれると思うから。</li> <li>・正子は、わたしのアドバイスをしっかりと受け止めてくれると信じているから。</li> <li>・自分(ひろ子)が正子さんだったら、最初は戸惑うかもしれないけど嬉しいと思うから。</li> <li>・本当に信じていることができるという心。</li> <li>・相手を大切にすること。</li> <li>・助けたい心。</li> </ul> <p>『人間理解』『他者理解』『価値理解』</p>	<p>て板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・悩んでいるときの気持ちを考え、ひろ子の葛藤に共感できるようにする。</li> <li>・発言をもとに必要な問い返しをして、本質に迫る。</li> <li>・行為行動に着目させるのではなく、その要因を補助発問や問い返しをして考えさせる。</li> <li>・児童の言葉を大切に板書にまとめる。</li> <li>・児童に時間を十分に与えて、ワークシートに考えを書かせたり、友達同士で話し合わせたりして、多面的・多角的な考えを引き出す。</li> </ul>
<p>●本時の学習を振り返る。</p> <p>○よりよい友達関係とはどんなことですか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言いにくいことでも友達のことを信頼したり、理解したりして伝えられる関係。</li> <li>・相手のことを考えて、判断して行動を起こせる関係。</li> <li>・嘘をつかずに接して絆をつくっていく関係。</li> </ul>	
<p>●自分の生活とつなげて振り返りを行う。</p> <p>○友達関係について、今までの自分はどうか、これからどのような気持ちを大切にしていこうか考えよう。</p>	<p>○追求した友達への価値観をこれからの友達関係につなげる意欲を高める。</p> <p>【振り返りの例】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一緒に仲良く遊ぶだけでなく、言いにくいことも友達にとって大切なことであれば、しっかり伝えることができるようにしたい。</li> <li>・助け合うとは、たんに教えるということではなく、友達にとって何が大切かを考えていきたい。</li> </ul> <p>『価値理解』</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入時の価値観とこの時点での価値観を比較させ、気持ちの変化を振り返らせる。</li> <li>・本時に児童が気付いた言葉をもとにしながら感想を書かせる。</li> </ul>

## 6. 評価

- ・互いに相手のことをよく考え、理解し、信頼し合うことが、よりよい友達関係に大切であることを多面的・多角的に捉え、自分事として考えている。

## 7. 板書計画

